

科学のもり「課題研究・発展（プルーフII）」研究成果報告書の作成要領

下記の要領にしたがい、研究テーマごとに報告書を作成して提出してください。

提出〆切 2月4日（金） 13:00

1. 提出について * 必ず担当教員の指導を受け、承認を得てから提出すること。

(1) **原稿を印刷したもの → 化学研究室提出箱に提出し、リストに○を付ける。**

(2) **データ** → 下記の要領で提出。

① **Word ファイル名** (=「班 No_研究室名_代表者氏名.docx」をつけて入れる。

例「41_織田研_豊臣秀吉.docx」

半角数字 半角アンダーバー 漢字名前 半角アンダーバー 名前.docx

PDF ファイル名 (=「班 No_研究室名_代表者氏名.pdf」をつけて入れる。

例「41_織田研_豊臣秀吉.pdf」

半角数字 半角アンダーバー 漢字名前 半角アンダーバー 名前.docx

② 写真やグラフを入れる場合は、本文に挿入したものは別に、写真データや Excel のファイルを提出すること。その際データに名前 (=班 No_研究室名_代表者氏名) をつけ、複数枚ある場合は番号をつける。 例「41_織田研_豊臣秀吉_2」

③ 提出方法

Google 共有ドライブ>プルーフII>提出物>研究成果報告書 2021

2. 分量 **A4 4ページ**

3. 書式 * “Microsoft Office Word”を使用し、必ず書式を守ること。

(1) 余白 = 上下右左 すべて 20mm 1 ページ = 45文字×45行

(2) 書式 ・ 1 ページ目

1 行目	タイトル	(MS ゴシック 14 ポイント・中央揃え)
2 行目	サブタイトルがあれば	(MS ゴシック 12 ポイント・中央揃え)
3 行目	Title	(Arial 14 ポイント・中央揃え)
4 行目	Subtitle	(Arial 12 ポイント・中央揃え)
5 行目	(空き)	: 10.5 ポイント)
6 行目	氏名	(MS 明朝 11 ポイント・右詰め)
7 行目	(空き)	: 10.5 ポイント)
8 行目	Abstract	(Arial 10.5 ポイント)
	要約	(In English、Century、10.5 ポイント 5 行くらい)
1 行	(空き)	: 10.5 ポイント)
	以下、本文 (日本語)	
	1. はじめに	(各項目はMS ゴシック 10.5 ポイント、項目数は全角数字)
		(本文はMS 明朝 10.5 ポイント・左 1 文字空ける)
	2. 研究方法	
	3. 実験結果	
	4. 考察	
	5. 今後の課題	
	6. 参考文献・URL	(項目の設定は、それぞれの研究に合わせて変更可)

・ 2 枚目以降は、1 行目から文章を入れる。

* 英語タイトルはポスターの表記方法にならう。(単語のあたまの大文字/小文字)

* 図や写真、グラフ等は見やすいよう大きく配置する。

「図1」、「表1」のように、図やグラフ、表等に番号をつけ、本文中で引用する。

* 本文中の数字については、2桁以上(記号と連なる場合を含む)は半角にする。

(表、グラフ等で数字を使用する場合においてもすべて半角)

半角数字は和文フォント(MS 明朝)を使用する。

* 見出しの数字は 1. → (1) → ① の順で用いること。

(3) 図表・写真等は貼り付ける。その上で、図表・写真のデータを別に提出すること。

* 白黒で印刷するので、グラフはモノクロで作成し、写真やその上に文字の色を書く場合も要注意。

《書式見本》

MS ゴシック 14P センター

研究成果報告書の書式について

MS ゴシック 12P センター

～ 美しいレイアウト～

What is *Kumamon*?

Arial 14P

- Beautiful Kumamoto -

Arial 12P

II 年芥川龍之介 I 年与謝野晶子 太宰治

Arial 10.5P

Century 10.5P

MS 明朝 11P 右詰

Abstract (In English)

In this study, we investigated

項目の数字は全角

本文は MS 明朝 10.5P

1. はじめに

MS ゴシック 10.5P

本校では、平成 18 年度より、学校設定科目「生命論（環境）」を、京都府南丹市美山町の芦生原生林をフィールドにして実施してきた。この講座は、自然豊かな原生林を体感するプログラムと地域住民などによる講義を通して、開発と保護の問題を互いに議論し、地域が抱える総合的な環境問題について考えるフィールドワーク型の環境教育である。環境問題は様々な分野と密接に関連しているため、現象や課題である諸問題を相互関連的、多角的にとらえていく総合的な視点が重要である。

1 文字下げる

1 行空ける

本文中で図、グラフ、表等を引用する

2. 研究方法

(1) 平成 26 年度のフィールドワーク（8 月 1 日～4 日実施）では、「関係図」（図 1）を学習支援ツールとして用いた。具体的な方法は、自由選択

図表・写真等は画像として貼り付けるモン

2 桁以上の数字は半角にする

した。次に共通した内容であるキーワードに対し、包括、交差（重なり）などの関係を図に表しグループ化した。複数の関係性のパターンを使い分けながら動き、流れ、方向、関係などを示すものとして矢印を用いて、事象の連続性や場面の展開などを表現した。

(2) フィールドワーク終了後、生徒が作成した「関係図」を時間軸に沿って階層性の構築や、項目の関係性の複雑化を分析した。また、生徒には自由記述の感想の提出を求め、「関係図」が生徒のプログラ

図、グラフの表題は下

ムの統合化にどのような影響を与えたかを検討した。

3. 研究結果

表の表題は上

表 1 関係図の経時的变化

作成日	階層の数	関係性
8 月 2 日	2	3
8 月 3 日	5	20

関係図の作成日数が増すごとに、フィールドワークで学習した多くのテーマにおいて、キーワードを同一テーマ内だけでなく、他のテーマのキーワードと結び付けて考えることができるように変化していた（表 1）。環境問題を高校生が総合的、構造的な理解を促進するために、フィールドワークの学習



図 1 関係図

支援ツールとして、関係図を用いることは効果的であることがわかった。

4. 考察

生徒の報告書から、.....

5. 謝辞

6. 参考文献・URL

「芦生の森から」 鈴木元著 かもがわ出版 2004

「くまモンオフィシャルサイト」 <http://kumamon-official.jp>